

- 調査期間 2023年1月～3月実績 2023年4月～6月見通し
- 調査時点 2023年3月
- 調査対象 西濃を中心とした地域の当金庫取引先事業所
- 調査方法 アンケート調査
前期(3ヶ月前)・前年同月(12ヶ月前)とを比較した質問を実施。
- 回答企業数 583 (回答率 97.2%)
- 調査結果

回答企業の内訳							
製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	合計	
195	38	107	95	124	24	583	

対象企業の地域						
大垣市	瑞穂市	本美市	海津市	養老郡		
244	18	68	16	41		
不破郡	安八郡	揖斐郡	本巣郡	その他	合計	
30	50	94	17	5	583	

景気の状況と今後の見通し

全産業総合	<p>▶概況 全産業の3か月前との比較で見た業況判断DIは、0.9 となり前期△1.6 と比べ悪化した。業種別業況では、製造業、小売業、建設業、不動産業が前回調査より悪化となったが、卸売業、サービス業については厳しい状況になった。全産業総合の生産・売上については、4.3 となり前期 4.0 と比べ悪化したものの、収益については、△9.5 (前期△8.0)、資金繰りについては、△9.5 (前期△5.6) といずれも前期より悪化となった。コロナ禍の規制緩和により売上は回復しつつあるものの、エネルギー価格をはじめとする物価高が、事業所の収益に影響を与えていることが窺える。全産業総合における今後3か月間の予想では、生産・売上については引き続き堅調に推移する見通しが強いが、収益については物価高の影響により当面厳しい状況が続く見通しとなった。経営上の問題点としては、「売上・受注の減少」の割合が前回調査より減少した一方で、「人材不足」の問題が前回調査より増加している。</p>
	<p>▶製造業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍からの規制緩和により観光・イベント関連を始めとして受注は増加傾向にあるものの、コロナ前までの水準までは至っていない傾向。自動車関連については、半導体不足の影響が続いており、受注の増減が激しい。一方で、電気自動車部品の需要は高水準を維持している。 ・最も多数を占めたコメントは、物価高騰関連のものであり、取引先に対しては価格転嫁の交渉を進めているが、十分な価格転嫁に至っていない状況にある。また人材の面では、外国人実習生の採用についてコロナ禍からの規制緩和により復調の兆しがあるものの、未だ人員不足が続いている状況との声があがっている。
製造業	<p>▶概況 製造業全体の業況判断DIは2.6となり前期1.5と比べ悪化した。食品製造業は0.0(前期5.3)窯業・土石業は△9.1(前期16.7)金属プレス・メッキ9.1(前期22.2)と取扱い製品により悪化した先が見受けられた。製造業全体の収益項目では、△14.4と前期△9.8と比べ悪化しており、材料・電気料金等の高騰により収益確保が厳しい状況にある事が窺える。また、収益項目の今後の見通しについては、金属プレス・メッキ以外の業種は引き続き厳しい状況が続くと予測している。</p>
	<p>▶卸売業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総じて物価高騰の影響を大きく受けており、各種経費増加に伴う販売価格への転嫁が課題となっている。高騰の影響は、電気料金や燃料費、鉄鋼価格、飼料価格、鳥インフルエンザの流行による卵価格など、幅広い分野に及んでいる。 ・卸売業では物価高騰に伴う収益確保が厳しいとの意見が他業種に比べて多く、業況判断DI値の結果を裏付けるコメントとなった。また、事業再構築補助金を活用し新事業を開始するなど、新規事業に挑戦する事業所も見受けられた。
卸売業	<p>▶概況 卸売業の業況判断DIは△10.5となり前期△5.3より悪化した。生産・売上、収益、資金繰りの各項目についても、前回調査より悪化しており、厳しい状況にある事が窺える。鉄鋼、木材、食品関連、光熱費の価格高騰の影響を大きく受けている業種であり、コメントからは、仕入・光熱費価格の高騰に関するものが他の業種と比べて多く見受けられた。仕入価格高騰に伴い価格転嫁を進めている事業所も見受けられたが、十分な価格転嫁が進んでいない状況にある。</p>
	<p>▶小売業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の規制緩和が進み飲食店の営業が活発となり、飲食店向けの売上は回復傾向にあるコメントがいくつか寄せられた。一方でコロナ禍の規制緩和により売上の回復を見込むも、思ったより売上が伸び悩むとのコメントもあり、取扱い商材により売上回復の濃淡が見受けられる。 ・IT設備、電気自動車、省エネ家電など、昨今の社会環境の変化に関連した商材は引き続き需要が見込まれる。 ・半導体不足による自動車納期の長期化は続いており、中古自動車の価格は若干低下したが引き続き高値圏で推移している。
小売業	<p>▶概況 小売業の業況判断DIは△2.8となり前期△9.4より悪化した。生産・売上、収益、資金繰りの各項目についても、前回調査より悪化した。経営上の問題点として「売上・受注の減少」と回答した事業所が44.9%と前回(52.3%)より減少したとはいえ、引き続き大きな問題となっている。コロナ禍の規制緩和が進む中、売上をどのように回復させるかが課題であり、テイクアウト・ネット販売などは引き続き力を入れていくコメントが見受けられた。</p>
	<p>▶サービス業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の規制緩和に伴い消費者の旅行・外食は増加しており、飲食店の売上は回復傾向にある。売上回復の規模については、「少しずつ回復」[徐々に増加]とのコメントであり、大幅な売上回復には至っていない状況が窺える。今後のインパウンドの回復による売上げの増加を期待している。 ・運送業については、原油価格の高騰により経費が増加している事に加え、ドライバーの人手不足が課題となっている。昨今の社会情勢の変化から防災やコロナ対策の清掃作業の需要は引き続き旺盛であるが、ペーパーレス化が進む事で売上減少を懸念する声もある。
サービス業	<p>▶概況 サービス業の業況判断DIは0.0となり前期4.3より悪化した。経営上の問題点として「売上・受注の減少」と回答した事業所は44.9%と前回(38.0%)から増加、コロナ禍からの規制緩和が進み、売上回復が期待される中、まだまだコロナ前までの売上水準に回復していない事が窺える。今後の見通しについては、いずれの項目も悪化を予想しており、コロナ規制緩和が進むも、物価高騰により見通しは厳しい意見が多く見受けられた。</p>
	<p>▶建設業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に住宅施工需要は安定しており、最近の光熱費高騰により、省エネ機能を備えたエアコンなどの家電の買替・取付工事も増加傾向にある。一方で、足元の物価高騰に伴う建築価格の上昇や住宅ローンの金利変動等により、今後は消費が冷え込む事を心配する声が見受けられた。 ・建設業では、特に人材面に関するコメントが多く、若手従業員の確保が厳しく従業員が高齢化している事や、受注があるが人手不足により全ての受注に対応できない、などの課題が見受けられた。木材価格の高騰は続いており、建築価格への価格転嫁が課題となっている。
建設業	<p>▶概況 建設業の業況判断DIは8.1となり前期0.8より悪化した。生産・売上項目についても、8.1(前期1.6)と悪化し、コロナ禍からの受注回復が進んでいることが窺える。経営上の問題点については、「売上・受注の減少」が29.8%と前期(33.3%)より減少した一方で、「人手不足」が47.6%と前期(38.2%)より増加し、他業種より人手不足は大きな課題となっている。売上は回復しているが、若手従業員の雇用が進まず従業員の高齢化が進んでいる結果となった。</p>
	<p>▶不動産業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界自体は、昨年と変わらず推移しているとの声があるが、先行きについては長期金利の引上げが顧客の需要にどの程度の影響を与えるか懸念する声があった。 ・岐阜市西部・瑞穂市・北方町などは、住居用地域として今後さらなる進展が期待できる声がある一方で、人口減少で将来的には土地購入者が減少する・空き家が散見されるなどの意見もあり、地域によって需要が大きく異なる状況である事が窺える。
不動産業	<p>▶状況 不動産業の業況判断DIは△12.5となり前期△20.8より悪化した。今後の見通しについては、業況、生産・売上、収益いずれも悪化する予測であるが、コメントの中では、金利の引上げの影響を懸念する声も見受けられた。経営上の問題点では、「人手不足」が4.2%と前期(12.5%)より改善し他業種との比較においても低い水準である一方で「競争の激化」が58.3%と前期(37.5%)から大きく増加した。</p>
	<p>▶不動産業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界自体は、昨年と変わらず推移しているとの声があるが、先行きについては長期金利の引上げが顧客の需要にどの程度の影響を与えるか懸念する声があった。 ・岐阜市西部・瑞穂市・北方町などは、住居用地域として今後さらなる進展が期待できる声がある一方で、人口減少で将来的には土地購入者が減少する・空き家が散見されるなどの意見もあり、地域によって需要が大きく異なる状況である事が窺える。

▶ 図表1 景況DI値

業種	業況			生産・売上			収益			資金繰り		
	前期DI	今期DI	今後の見通し									
全産業総合	▲1.6	0.9	1.2▲	4.0	4.3	6.0▲	▲8.0	▲9.5	▲8.4▲	▲5.6	▲9.5	▲7.7▲
製造業総合	1.5	2.6	4.6▲	9.8	7.2	12.8▲	▲9.8	▲14.4	▲13.4▲	▲4.2	▲13.5	▲11.5▲
食料品製造	5.3	0.0	▲10.0▼	5.3	5.0	5.0⇐	▲15.8	▲35.0	▲30.0▲	▲5.6	▲5.3	▲5.3⇐
衣服その他繊維製品	▲5.9	0.0	0.0⇐	11.8	0.0	15.4▲	▲5.9	0.0	▲23.1▼	5.9	▲23.1	▲15.4▲
窯業・土石	16.7	▲9.1	▲9.1⇐	16.7	0.0	0.0⇐	▲8.3	▲18.2	▲27.3▼	▲8.3	▲9.1	▲9.1⇐
金属製品	0.0	9.1	0.0▼	13.6	9.1	▲4.5▼	▲13.6	▲4.5	▲18.2▼	▲9.1	▲4.5	0.0▲
金属プレス・メッキ	22.2	9.1	18.2▲	27.8	18.2	27.3▲	0.0	▲22.7	4.5▲	0.0	▲9.1	▲4.5▲
その他製造業	0.0	▲8.7	▲8.7⇐	9.7	0.0	0.0⇐	▲19.4	▲30.4	▲34.8▼	▲3.2	▲26.1	▲26.1⇐
卸売業	▲5.3	▲10.5	▲7.9▲	5.3	▲2.6	▲2.6⇐	▲2.6	▲15.8	▲21.1▼	▲2.7	▲8.1	▲2.7▲
小売業	▲9.4	▲2.8	0.0▲	▲0.9	0.0	9.3▲	▲19.8	▲9.3	▲13.1▼	▲10.4	▲7.5	▲7.5⇐
サービス業	4.3	0.0	▲1.1▼	5.4	6.3	1.1▼	▲15.2	▲13.7	▲20.0▼	▲9.8	▲9.5	▲12.6▼
建設業	0.8	8.1	1.6▼	1.6	8.1	0.8▼	▲8.9	▲10.5	▲7.3▲	▲6.5	▲4.8	▲4.0▲
不動産業	▲20.8	▲12.5	0.0▲	▲16.7	▲16.7	▲4.2▲	▲8.3	▲8.3	0.0▲	▲4.2	▲8.3	▲4.2▲

今後の見通しは今期DI値と比較してDI値がプラスの場合は▲ マイナスは▼ 0は⇐で表記。

▶ 図表2 設備投資の状況

業種	設備投資			
	今期実施割合	投資の内訳(最も多いもの)	設備の目的(最も多いもの)	今後の実施予定
全産業総合	4.7%	更改	合省力化	3.6%▼
製造業総合	5.6%	更改	合省力化	4.6%▼
卸売業	2.6%	その他	—	2.6%⇐
小売業	3.7%	その他	拡販投資	1.9%▼
サービス業	5.3%	その他	合省力化	3.2%▼
建設業	4.0%	機械の新・増設更改	合省力化	4.0%⇐
不動産業	—	—	—	—

(今後の実施予定は今期実施割合と比較して増加する場合は▲ 減少する場合は▼ 変わらない場合は⇐で表記)

▶ 図表3 経営上の問題点

業種	経営上の問題点							
	売上・受注の減少		人手不足		競争の激化		その他	
	今期割合	前期との比較	今期割合	前期との比較	今期割合	前期との比較	今期割合	前期との比較
全産業総合	39.5%	▼	30.5%	▲	11.5%	▼	5.1%	▼
製造業総合	39.5%	▼	32.3%	▲	4.6%	▼	1.0%	▼
卸売業	39.5%	▼	28.9%	▲	13.2%	▼	7.9%	▼
小売業	44.9%	▼	12.1%	▲	14.0%	▼	15.9%	▼
サービス業	44.2%	▲	32.6%	▼	11.6%	▲	5.3%	▼
建設業	29.8%	▼	47.6%	▲	10.5%	▼	1.6%	▼
不動産業	45.8%	▼	4.2%	▼	58.3%	▲	4.2%	▼

(前期との比較は前回調査と比較して増加している場合は▲ 減少している場合は▼ 変わらない場合は⇐で表記)

▶ 図表4 主要DI値の推移

(調査の分析は3か月前と比較した回答結果を中心におこなっています。しかし3か月前との比較は季節的な要因を含んでおり長期の景況感の変化を見るため、業況・売上・収益の3項目については、前年同月と比較してどうだったのかを質問しています。図表4はこの前年同月と比較した景況感を時系列のグラフにしたものであり、西濃を中心とした地域の長期の景況感の推移を示しています)

